



やりがいを持って働く人に学ぶ ~中1職業講話~

【北國新聞 R7.2.1 朝刊より】

地元で働く意義について学ぶ生徒
=白山市白嶺中

地元で働く意義学ぶ 白嶺中で職業講話



白山市白嶺中の職業講話「働く人に学ぶ会」は31日、同中で開かれ、1年生6人が地元で働くことの意義について理解を深めた。北國新聞社の宮本章史広報部長が講師を務めた。北國新聞の記者は地域に溶け込み、住民に寄り添って取材をしていると紹介し、「地元紙を読みふるさとを知ることは将来の職業を選ぶためのヒントになる」と述べた。続いて「金沢まいもん寿司」を展開するエムアンドケイ（金沢市）の渡部晃市さんが、今の仕事に就いたきっかけや社会人としての心構えについて話した。

職業講話の目的は様々な職業や働くことへの関心を高めるため、今後は職業に対する視野をさらに広げ、2年生で実施予定の職場体験へと繋げていきます。

講師のお二人は、あらかじめお送りした全員の自己紹介カードによく目を通され、皆さんに会えるのがとても楽しみで、質問にもできるだけお答えしたいとおっしゃっていました。また、必要な資格、中学生の間にやっておくと良いことにも触れていただき、明日からの学校生活にも大いに生かせるお話をしました。生徒らは熱心に聴き、メモをとったり積極的に質問をしたりして、将来の職業選択の参考にしました。



卒業生に感謝の気持ちを込めて ~ 小学校編 ~

2月21日(金)、小学校では「6年生を送る会」が行われました。1～5年生が、6年生に向けて感謝の気持ちを劇や絵、クイズなどで表現しました。これまで、たて割り班活動や学校行事などを通して優しく教えてもらい、心強い声をかけてもらった6年生へ感謝の気持ちを表現力豊かに伝えました。

そして、6年生自身も、これまでの成長を温かく支えてくださった家族や先生、友達や下級生に感謝の心がこもった発表をしてくれました。「6年生ってすごいなあ」と思わせるプレゼントでした。会を盛り上げ、司会進行を立派にやりきった5年生。てきばきと行動し、スムーズに運営する姿はお見事でした。6年生からしっかりとバトンを受け継ぎ、新年度に向けてよいスタートをきることができました。



児童が企画 本格野球教室

ミリスタと電話交渉 選手招く



上：子どもたちと交流する森路真選手
下：森選手㊨



プロ野球独立リーグ・日本海リーグの石川ミリオンスターズの選手を招いた野球教室が、白山市白嶺小中学校であった。教室を企画したのは白嶺小の児童たち。子どもたちは野球の楽しさに触れたほか、アイデアを実現する難しさや楽しさを学んだ。

(中尾真菜)

会議は白嶺小の児童10人が参加

（64）は「実行できたら楽しい、自分がやったことが人の役に立つた」という達成感を味わってもらえた

ら」と期待する。

会議は白嶺小中学校や地域の学童野球クラブに所属する児童生徒など計35人が参加。同市鳥越地区出身で外野手の森路真選手（23）が講師を務め、投球や打撃を指導した。打撃練習では、森選手が「真っすぐ立てから、ボールを見てスイングして」となどアドバイス。子どもたちは一生懸命にバットを振り、ボールが遠くに飛びと歓声を上げて喜んだ。

柴山さんは「柔道をしているが、野球もやりたいという気持ちになった」と話し、宮腰さんは「最初はできるか分からなかつたけど、成功できて良かった」と笑顔を見せた。

今後は、白山野々市広域消防本部防災学習センター（同市三浦町）や市内の商業施設を訪れるほか、キャンプや釣りをする企画を計画している。笛山さんは「地域の人々に見てもらい、子どもたちが認められる場面をつくると、やりがいができる。地域の人の目に付く活動にしていけたら」と話した。

白山・白嶺小中「成功できて良かつた」

ミニユニティ会長の笛山昌仁さん

（64）は「2月26日にあり、白

嶺小中学校や地域の学童野球クラブに所属する児童生徒など計35人が参加。同市鳥越地区出身で外野手の森路真選手（23）が講師を務め、投球や打撃を指導した。打撃練習では、森選手が「真っすぐ立てから、ボールを見てスイングして」となどアドバイス。子どもたちは一生懸命にバットを振り、ボールが遠くに飛びと歓声を上げて喜んだ。

柴山さんは「柔道をしているが、野球もやりたいという気持ちになった」と話し、宮腰さんは「最初はできるか分からなかつたけど、成功できて良かつた」と笑顔を見せた。

今後は、白山野々市広域消防本部防災学習センター（同市三浦町）や市内の商業施設を訪れるほか、キャンプや釣りをする企画を計画している。笛山さんは「地域の人々に見てもらい、子どもたちが認められる場面をつくると、やりがいができる。地域の人の目に付く活動にしていけたら」と話した。

～新しいことに挑戦した君へ～

やってみたいことを、いくつも考えたでしょう。

どうすればできるか、時間をかけて話し合ったでしょう。

やってるために、みんなで力を合わせたでしょう。

終わった時には、おおぜいの人からあなたのおかげと感謝されたでしょう。

でもそれ以上に、あなたはまわりの支えに感謝したことでしょう。

やってよかったです今、あなたは想像以上に進化しているはずです。